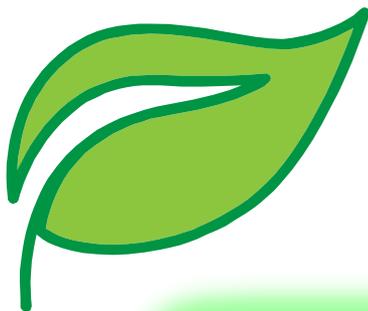


環境活動レポート

(2009年版 エコアクション21ガイドライン対応)



「きれいだね、きれいにしているね」
をモットーに

「環境に優しいものづくり」
を推進します



瀬戸日の出工場



瀬戸日の出第2工場

【2016年度版】

対象期間 (2016年5月～2017年4月)

発行日 2017年7月20日
改定日 2017年8月11日



株式会社 **カワサキ**

目 次

項 目	ページ
1. 組織の概要	P1~P2
2. 実施体制及び対象範囲	P3
3. 環境方針	P4
4. 環境目標	P5
5. 環境活動計画	P6~P7
6. 環境目標に対する実績	P8~P9
7. 環境活動取組結果の評価と次年度の取組内容	P10~P13
8. 環境関連法規制等への違反及び訴訟の有無	P14
9. 代表者による全体評価と見直しの結果	P14

1. 組織の概要

(1) 会社名及び代表者

株式会社 カワサキ
代表取締役 川崎 智之

(2) 所在地

本社 名古屋市昭和区福江二丁目7番23号
瀬戸日の出工場 瀬戸市日の出町28番地
瀬戸日の出第2工場 瀬戸市日の出町30番地
瀬戸日の出第3工場 瀬戸市日の出町19番地

(3) 会社概要

売上金 729百万円 (2016年度)
資本金 10百万円
事業年度 5月1日～4月30日
人員、規模等 (2017年6月1日現在)

	本社	瀬戸日の出工場	瀬戸日の出第2工場	瀬戸日の出第3工場	合計
従業員数	1	53	13	—	67
(内パート等)	(0)	(8)	(0)	—	(8)
敷地面積	—	2141.87㎡	933.49㎡	1305.17㎡	4380.53㎡

主要取引先

(株)鳴海合金製作所、リンナイ(株)、リンナイ(株) 関連各社 他 30社以上

(4) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 QE推進課 課長 各務 鋼

連絡先

本社 TEL 052-881-9223 FAX 052-881-9291
瀬戸日の出工場 TEL 0561-86-8886 FAX 0561-86-8889
e-mail : kakumu@kawasaki-paint.co.jp

(5) 沿革

創業 1956年1月(昭和31年)

設立 1974年10月1日(昭和49年)

2010年10月(平成22年)瀬戸日の出工場稼働

2012年7月(平成24年)エコアクション21認証取得

2012年12月(平成24年)瀬戸市「環境に優しい事業所」認証取得

2014年3月(平成26年)瀬戸日の出工場カラー電着ライン稼働

2014年6月(平成26年)瀬戸日の出第2工場新塗装ライン(粉体)稼働

2015年2月(平成27年)瀬戸日の出第2工場新(環境配慮型)前処理ライン稼働

2017年7月(平成29年)瀬戸日の出第3工場開所予定(アルミ自動車部品専門工場)

(6) 事業内容

ガス器具部品、自動車部品、弱電部品、遊戯機等の金属塗装・プラスチック塗装
・カチオン電着塗装 ・静電塗装 ・アルミ素材への前処理及び電着塗装、吹付塗装
・各種溶剤吹付塗装 ・樹脂塗装 ・粉体塗装



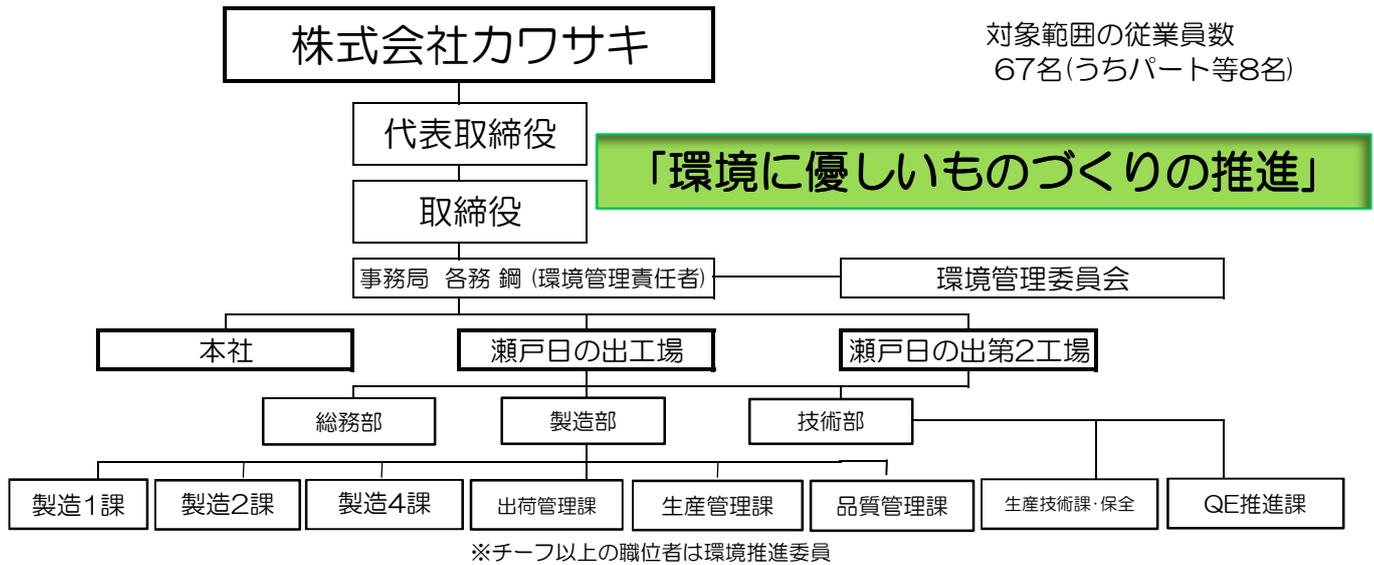
(当社の特長)

- ①カチオン電着ラインと静電塗装ラインが併設してあることにより同一工場内での下塗りから上塗りまでの一貫工程が可能となっています。従って、工程別に複数の業者に発注する必要がなくコスト削減、納期短縮が実現出来ます。
- ② 新しく従来の溶剤塗装に加え粉体塗装ラインの導入により顧客の幅広いニーズへの対応が可能となりました。金属製品のみならず美粧、耐久性向上、特殊機能付与等を目的とした、プラスチック素材への塗装も行っており、「塗装のオールラウンドプレーヤー」としての体制を確保しています

2. 実施体制及び対象範囲

(1) 環境マネジメント組織図

(2017年 5月現在)



(2) 職務権限

代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システム(EA21)の実施に必要な資源の確保と提供 環境管理責任者の任命 環境方針の策定、見直しを全従業員に周知 環境目標、環境活動計画の承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
事務局 (環境管理責任者)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システム(EA21)の構築、実施、管理、維持 環境経営システム(EA21)の実施状況及び改善の必要性の有無を代表者に報告 環境関連法規制等の遵守確認 環境活動レポートの作成 環境管理委員会の開催 環境経営システム(EA21)に係る手順書の作成 環境経営システム(EA21)の運用、維持に係る各部門への支援
環境管理委員会 (情報交換会議)	<ul style="list-style-type: none"> 環境目的、環境目標の策定 環境管理責任者の業務を補佐し、環境管理活動を展開する 環境管理活動の展開を図る為、重要課題について対応策を検討し展開する
環境推進委員 (各部門のチーフ以上)	<ul style="list-style-type: none"> 各部門における環境経営システム(EA21)の実施、運用 各部門における環境方針の周知と教育を推進 環境活動計画の実施及び状況を環境管理委員に報告 自部門の環境管理の実施、点検及び是正の指示を行う
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境問題への取組みの重要性を自覚 決められた手順と担当業務に適用される法規制・要求事項を遵守する

(3) 環境活動レポートの対象範囲

- ①今年度、瀬戸日の出工場、日の出第2工場を対象とし対象期間は 2016年5月1日～2017年4月30日です
 - ・事業活動：金属部品の溶剤塗装、粉体塗装及びカチオン電着塗装、樹脂部品の溶剤塗装
- ②次年度は2017年5月1日～2018年4月30日までを対象とし、同年6月上旬までに作成する予定です
 - ・瀬戸日の出第3工場は2018年度より対象範囲に追加・拡大致します

3. 環境方針

株式会社 カワサキ 環境方針

基本理念

私たち株式会社カワサキは、事業活動における環境負荷の低減や社会に貢献出来る活動を通じて地球温暖化への対応や資源の有効利用に向けて全員で取り組み、環境に優しいものづくりの推進により地球環境との調和と保全を図ってまいります。

基本方針

- ① 環境保全に対する目標・活動計画を定め推進し、見直しを行うことにより環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- ② 当社の事業活動に適用される環境に関する法的要求事項及び協定等を遵守します。
- ③ 地球温暖化の原因となる二酸化炭素排出量ならびに水使用量の削減、廃棄物の排出量削減及びリサイクルについて目標を定め取り組みます。
- ④ 化学物質の効率的な利用により使用量の削減に努めます。
- ⑤ 環境保全や省資源に配慮した製品の購入に心掛けます。
- ⑥ 全従業員が環境方針を周知し、環境に関する教育訓練を実施するとともに当社に関連する全ての人が見覧出来る様に開示します。

制定日 2012年1月 6日



株式会社 **カワサキ**

代表取締役 川崎 智之



4. 環境目標

※瀬戸日の出工場

基準値を設定した2011年1月～12月の生産内容(生産品目・数量)と2012年度の状況が大きく変動しており、(基準値に対する)評価として問題が生じました。(→多品種小ロットの受注が増えている)従って、2012年度の実績を基準として2013年度から、より実状に即した内容に改め環境活動を推進する事としました。

※瀬戸日の出第2工場

基準値を2015年度の実績値として環境活動を推進する事としました。

環境取組項目		環境効率指標	基準値	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	
瀬戸日の出工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	2325 1102	1%削減	基準値(2012年度実績)に対し毎年1%づつ上乗せして削減		
		都市ガス使用量	m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	566 1194	1%削減			
		ガソリン使用量	ℓ/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	10.01 23.23	—			
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	2319	1%削減			
	絶対値(kg-CO ₂)		743302	1%削減				
	水使用量の削減	m ³ /生産高	19.05	1%削減				
	産業廃棄物の削減	kg/生産高	330	1%削減				
	化学物質使用量の削減	kg/生産高	38.55	1%削減				
	グリーン購入の推進	購入比率	—	25%以上	購入品目の25%以上をグリーン購入			
	瀬戸日の出第2工場目標値	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	2167 949			1%削減
都市ガス使用量			m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	918 1734	1%削減			
ガソリン使用量			ℓ/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	0.00 0.00	—			
総排出量			(kg-CO ₂)/生産高	2683	1%削減			
		絶対値(kg-CO ₂)	242833	1%削減				
水使用量の削減		m ³ /生産高	11.41	1%削減				
産業廃棄物の削減		kg/生産高	475	1%削減				
化学物質使用量の削減		kg/生産高	6.62	1%削減				
グリーン購入の推進		購入比率	—	25%以上	購入品目の25%以上をグリーン購入			

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

(注2) グリーン購入の環境効率指標：購入品目比率(%)

(注3) 瀬戸日の出工場 基準値：2012年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

瀬戸日の出第2工場 基準値：2015年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注4) 排出係数：電力 0.474kg-CO₂/ kWh 都市ガス 2.108kg-CO₂/ m³

5. 環境活動計画 (2016年度)

5-1 瀬戸日の出工場

環境目標を達成する為に、次の活動計画に取り組めます

【目標：電気使用量を基準値の4%/年削減 指標： kWh/生産高】

- ① 不良削減を図り不必要な稼働時間延長を防止
- ② ライン稼働に不要な設備の電源 ON/OFF確認
- ③ 事務所及び工場の不要照明の消灯
- ④ ｺｯﾌﾟﾚｯｻ-等関係設備のエコ運転 (能力設定をミﾐﾑ化)
- ⑤ 毎月の電気使用量を把握・監視
- ⑥ 冷房温度28℃設定とクールビズ運動 (夏季 6月～9月に実施)
- ⑦ 暖房温度20℃設定とウオーﾑビズ運動 (冬季 12月～3月に実施)

【目標：ガス使用量を基準値の4%/年削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② ボイラー等関係設備の起動・停止時期見直し
- ③ 毎月のガス使用量を把握・監視

【目標：水道使用量を基準値の4%/年削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② 前処理設備の見直し
- ③ 節水意識の高揚
- ④ 毎月の水道使用量を把握・監視

【目標：廃棄物排出量を基準値の4%/年削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による廃棄物削減
- ② 廃棄物容量の減容化
- ③ 廃棄物の分別の徹底
- ④ 廃棄物の資源化検討 (リサイクル出来る物を発掘)
- ⑤ 毎月の廃棄物排出量を把握・監視

【目標：化学物質使用量を基準値の4%/年削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による化学物質使用量削減
- ② 作業 (洗浄・調合) 内容見直し
- ③ 毎月の化学物質使用量を把握・監視

品質不良削減

※二酸化炭素排出量の削減に向けた「ガソリン使用量削減」については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行ないます。また、事業系一般廃棄物についても排出量が少量のため排出量管理を行ないます。

*「社会全体の環境負荷改善への貢献」として

【目標：グリーン購入の推進 全社で購入品目の25%以上を購入 指標： 購入品目比率】

- ① グリーン購入法適用商品の購入推進

品質不良削減を図りエネルギー使用量及び産業廃棄物排出量の削減を推進します

5-2瀬戸日の出第2工場

環境目標を達成する為に、次の活動計画に取り組めます

【目標：電気使用量を基準値の1%/年削減 指標： kWh/生産高】

- ① 不良削減を図り不必要な稼働時間延長を防止
- ② ライン稼働に不要な設備の電源 ON/OFF確認
- ③ 事務所及び工場の不要照明の消灯
- ④ 37° レッサー等関係設備のエコ運転（能力設定をミニム化）
- ⑤ 毎月の電気使用量を把握・監視
- ⑥ 冷房温度28°C設定とクールビズ運動（夏季 6月～9月に実施）
- ⑦ 暖房温度20°C設定とウオームビズ運動（冬季 12月～3月に実施）

【目標：ガス使用量を基準値の1%/年削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② ボイラー等関係設備の起動・停止時期見直し
- ③ 毎月のガス使用量を把握・監視

【目標：水道使用量を基準値の1%/年削減 指標： m³/生産高】

- ① 不良削減を図り塗り直し等による稼働時間延長を防止
- ② 前処理設備の見直し
- ③ 節水意識の高揚
- ④ 毎月の水道使用量を把握・監視

【目標：廃棄物排出量を基準値の1%/年削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による廃棄物削減
- ② 廃棄物容量の減容化
- ③ 廃棄物の分別の徹底
- ④ 廃棄物の資源化検討（リサイクル出来る物を発掘）
- ⑤ 毎月の廃棄物排出量を把握・監視

【目標：化学物質使用量を基準値の1%/年削減 指標： kg/生産高】

- ① 不良削減による化学物質使用量削減
- ② 作業（洗浄・調合）内容見直し
- ③ 毎月の化学物質使用量を把握・監視

品質不良削減

※二酸化炭素排出量の削減に向けた「ガソリン使用量削減」については物流体制が外部委託によっており、使用量が少量の為、毎月の使用量管理を行ないます。また、事業系一般廃棄物についても排出量が少量のため排出量管理を行ないます。

*「社会全体の環境負荷改善への貢献」として

【目標：グリーン購入の推進 全社で購入品目の25%以上を購入 指標： 購入品目比率】

- ① グリーン購入法適用商品の購入推進

品質不良削減を図りエネルギー使用量及び産業廃棄物排出量の削減を推進します

6. 環境目標に対する実績(2016年度)

6-1 瀬戸日の出工場

環境負荷の過去実績

環境負荷	対象品目	(2011年1月~12月)	2012年度 基準値	2016年度
温室効果ガス排出量 (kg-CO ₂)	電力、都市ガス、 ガソリン	648766	743302	974209
廃棄物排出量(t)	最終処分量	11.35	18.51	20.43
水資源(m ³)	水道水	5403	5371	8492
化学物質使用量(kg)	塗料、溶剤	11526	12163	24815

注) 事業年度 5月~翌年4月

※ CO₂排出係数： 電力 0.474kg-CO₂/kWh 都市ガス 2.108kg-CO₂/m³

環境取組項目			2015年5月~2016年4月					
			環境効率指標	基準値	目標	実績	削減率 (対基準値)	評価
瀬戸日の出工場 目標値	二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	2325 1102	4%削減	1425 656	38.71%削減	◎
		都市ガス使用量	m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	566 1194	4%削減	328 859	42.05%削減	◎
		ガソリン使用量	ℓ/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	10.01 23.23	—	5.94 31.74	—	—
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	2319	4%削減	1590	31.44%削減	◎
			絶対値(kg-CO ₂)	743302	4%削減	974209	31.07%増加	×
		水使用量の削減	m ³ /生産高	19.05	4%削減	13.86	27.24%削減	◎
	産業廃棄物の削減	kg/生産高	330	4%削減	232	29.69%削減	◎	
	化学物質使用量の削減	kg/生産高	38.55	4%削減	40.12	4.07%増加	×	
	グリーン購入の推進	購入比率	—	25%以上	35.6	142.4% (達成率)	◎	

(注1) 環境効率指標の単位は、原単位：生産高 百万円あたりとしています

(注2) グリーン購入の環境効率指標：購入品目比率(%)

(注3) 基準値：2012年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注4) 排出係数：電力 0.474kg-CO₂/kWh 都市ガス 2.108kg-CO₂/m³

(※評価の基準)

- ◎：削減率が10.0%以上⇒大幅に目標をクリア
- ：削減率が1.0~10.0%未満⇒目標をクリア
- △：削減率が0.0~1.0%未満⇒ほぼ目標達成
- ×：増加⇒目標未達

6. 環境目標に対する実績

6-2 瀬戸日の出第2工場

環境負荷の過去実績

環境負荷	対象品目	2015年度
温室効果ガス排出量 (kg-CO ₂)	電力、都市ガス、 ガソリン	242883
廃棄物排出量(t)	最終処分量	6.17
水資源(m ³)	水道水	808
化学物質使用量(kg)	塗料、溶剤	0

注) 事業年度 5月～翌年4月

※ CO₂排出係数：電力 0.474kg-CO₂/kWh 都市ガス 2.108kg-CO₂/m³

環境取組項目			2016年5月～2017年4月					
			環境効率指標	基準値	目標	実績	削減率 (対基準値)	評価
瀬戸日の出工場 目標値	二酸化炭素 排出量の削減	電力使用量	kwh/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	2167 949	1%削減 —	2602 1219	20.07%増加 —	×
		都市ガス使用量	m ³ /生産高 (kg-CO ₂)/生産高	918 1734	1%削減	1011 2700	10.13%増加	×
		ガソリン使用量	ℓ/生産高 (kg-CO ₂)/生産高	0.00 0.00	—	0.00 0.00	—	—
		総排出量	(kg-CO ₂)/生産高	2683	1%削減	3954	48.88%増加	×
			絶対値(kg-CO ₂)	242883	1%削減	301000	23.95%増加	×
		水使用量の削減	m ³ /生産高	11.41	1%削減	10.64	6.75%削減	○
	産業廃棄物の削減	kg/生産高	475	1%削減	528	11.68%増加	×	
	化学物質使用量の削減	kg/生産高	6.62	1%削減	0.00	(未使用)	—	
	グリーン購入の推進	購入比率	—	25%以上	32.5%	130% (達成率)	◎	

P

(注2) グリーン購入の環境効率指標：購入品目比率(%)

(注3) 基準値：2015年度の各項目使用量または排出量 / 生産高

(注4) 排出係数：電力 0.474kg-CO₂/kWh 都市ガス 2.108kg-CO₂/m³

(※評価の基準)

- ◎：削減率が10.0%以上⇒大幅に目標をクリア
- ：削減率が1.0～10.0%未満⇒目標をクリア
- △：削減率が0.0～1.0%未満⇒ほぼ目標達成
- ×

7. 環境活動取組結果の評価と次年度の取組内容

7-1 取組結果の評価 2016年度 瀬戸日の工場 (2016年5月～2017年4月)

※基準値を設定した2011年1月～12月の生産内容(生産品目・数量)と今年度の状況が大きく変動しており、(基準値に対する)評価として問題ありと考えます。
(多品種小ロットの受注が増えている)
従って、2012年度の実績を基準として2013年度からより実状に即した内容に改め環境活動を推進する事としました。

取組項目	活動計画	実績と評価															
【電力使用量の削減】 原単位(kwh/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 ライン稼働に不要な設備の電源ON/OFF確認 事務所及び工場の不要照明の消灯 37°レシー等関係設備のエコ運転 毎月の電力使用量を把握・監視 冷房設定温度確認とクールス運動 暖房設定温度確認とウォーミングス運動 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値4%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kwh/生産高(百万円)</td> <td>2232</td> <td>1425</td> <td>38.71%</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価) 通期での使用量は前年度比で3.07%減となっており 毎時使用量は10.12%増となっている。 基準年度に対し売上高が大幅に増え効率指標が大幅に改善しているが、不良対策に向けた設備機器の導入により毎時使用量が大幅に増加。今後はさらなる不良削減が今後のメインテーマとなる。</p> <p>次期取組 重要度 ◎(重要)</p>	基準値4%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kwh/生産高(百万円)	2232	1425	38.71%	◎
基準値4%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kwh/生産高(百万円)	2232	1425	38.71%	◎													
【ガス使用量の削減】 原単位(m³/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 ボイラー等関係設備の起動停止時期見直し 毎月のガス使用量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値4%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 m³/生産高(百万円)</td> <td>543</td> <td>328</td> <td>42.05%</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価) 通期での使用量は前年比で12.28%の減少となっており 毎時使用量は0.35%減で前年度とほぼ同じ。電気と比較して新たなガス使用機器の導入がなかったためと推測される。 電気と同様に基準年に対し売上高の大幅増加により効率指標は大幅に改善している。</p> <p>次期取組 重要度 ◎(重要)</p>	基準値4%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 m³/生産高(百万円)	543	328	42.05%	◎
基準値4%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 m³/生産高(百万円)	543	328	42.05%	◎													
【水道使用量の削減】 原単位(m³/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 前処理設備の見直し 節水意識の高揚 毎月の水道使用量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値4%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 m³/生産高(百万円)</td> <td>18.29</td> <td>13.86</td> <td>27.24%</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価) 前年比で水道使用量9.4%減少はとなっており、毎時使用量は前年比で2.86%の増加となっているが、これは製品の特性上塗装前処理工程での水道使用量の増加が主な要因であり、想定範囲内の状態である。 他の項目と同様に売上大幅増により基準年に対し効率指標は大幅改善している。</p> <p>次期取組 重要度 ◎(重要)</p>	基準値4%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 m³/生産高(百万円)	18.29	13.86	27.24%	◎
基準値4%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 m³/生産高(百万円)	18.29	13.86	27.24%	◎													
【産業廃棄物の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減による廃棄物排出量削減 廃棄物容量の減容 廃棄物の分別の徹底 廃棄物の省資源化検討(リサイクル出来る物を発掘) 毎月の廃棄物排出量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値4%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kg/生産高(百万円)</td> <td>317</td> <td>232</td> <td>29.69%</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価) 通期での排出量は前年比で23.53%の大幅な減少となっている。 ヤシの実フィルターと金属くずの減少が主な要因であるが、今後は不良削減による産廃排出量の削減が大きな課題となる。 他の項目と同様に売上大幅増により基準年に対し効率指標は大幅改善している。</p> <p>次期取組 重要度 △(維持)</p>	基準値4%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kg/生産高(百万円)	317	232	29.69%	◎
基準値4%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kg/生産高(百万円)	317	232	29.69%	◎													
【化学物質使用量の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減による化学物質使用量削減 作業方法(洗浄・調合)の見直し 毎月の化学物質使用量を把握・監視 <p>PRTR法の届出対象事業所に該当する</p>	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値4%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kg/生産高(百万円)</td> <td>37.01</td> <td>40.12</td> <td>4.07% 増加</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価) 現主力部品の立ち上がりに伴い基準年に対し売上は大きく増加しているが、不良率削減が進まない状況が如実に現れている。前年比では化学物質使用量は減少しているが依然として高水準にあり、不良率の削減が最も効果の大きい方策となるため今後の最重点事項として取組む。</p> <p>次期取組 重要度 ◎(最重要)</p>	基準値4%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kg/生産高(百万円)	37.01	40.12	4.07% 増加	×
基準値4%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kg/生産高(百万円)	37.01	40.12	4.07% 増加	×													
【二酸化炭素排出量の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 毎月の電気・ガス・ガソリン使用量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値4%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kg/生産高(百万円)</td> <td>2226</td> <td>1590</td> <td>31.44%</td> <td>◎</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価) 電気、ガスの効率指標の大幅改善が主な要因。他の項目と共通で不良率削減の度合いが大きく影響する。</p> <p>次期取組 重要度 △(維持)</p>	基準値4%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kg/生産高(百万円)	2226	1590	31.44%	◎
基準値4%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kg/生産高(百万円)	2226	1590	31.44%	◎													

7. 環境活動取組結果の評価と次年度の取組内容

7-1 取組結果の評価 2016年度 瀬戸日の出第2工場 (2016年5月～2017年4月)

※基準値を2015年度実績としており、今期より環境活動開始(2015年度はデータ採り)

取組項目	活動計画	実績と評価															
【電力使用量の削減】 原単位(kwh/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 ライン稼働に不要な設備の電源ON/OFF確認 事務所及び工場の不要照明の消灯 ｺﾝﾌﾟﾚｯｻ等関係設備のエｺ運転 毎月の電力使用量を把握・監視 冷房設定温度確認とｸｰﾙﾋﾞｽﾞ運動 暖房設定温度確認とﾜｰﾋﾞｽﾞ運動 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kwh/生産高(百万円)</td> <td>2145</td> <td>2602</td> <td>20.07%増加</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>通期での使用量は前年度比で20.07%増加となっている。 夜勤体制の本格化稼働が主な要因。(外注委託製品の内製化対応) 稼働延長により電気使用量は増加したが、売上げ金額が伸びて おらず効率指標が後退後退している。稼働体制安定化により 次年度との評価が重要となる。</p> <p>次期取組 重要度 ○(重要)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kwh/生産高(百万円)	2145	2602	20.07%増加	×
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kwh/生産高(百万円)	2145	2602	20.07%増加	×													
【ガス使用量の削減】 原単位(m³/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 ボイラー等関係設備の起動 停止時期見直し 毎月のガス使用量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 m³/生産高(百万円)</td> <td>909</td> <td>1011</td> <td>10.13%増加</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>通期での使用量は前年度比で10.13%増加となっている。 夜勤体制の本格化稼働と不良品再塗装が主な要因。 (外注委託製品の内製化対応) 稼働延長によりガス使用量は増加したが、売上げ金額が伸びて おらず効率指標が後退後退している。不良率削減が大きな課題</p> <p>次期取組 重要度 ○(重要)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 m³/生産高(百万円)	909	1011	10.13%増加	×
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 m³/生産高(百万円)	909	1011	10.13%増加	×													
【水道使用量の削減】 原単位(m³/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 前処理設備の見直し 節水意識の高揚 毎月の水道使用量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 m³/生産高(百万円)</td> <td>11.30</td> <td>10.64</td> <td>6.75%</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>前年比で水道使用量6.75%増加になっているが、第2工場前処理 を行わない仕様の売上が伸びたことで効率指標は改善している。 水道使用量と第2工場の売上が連動しない。 第2工場の水道使用量の大半は1F前処理に伴うものであり 1治具あたりの投入工数を増やすことで、前処理関係分の売上増加と 稼働時間抑制を目指して行く。</p> <p>次期取組 重要度 ○(重要)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 m³/生産高(百万円)	11.30	10.64	6.75%	○
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 m³/生産高(百万円)	11.30	10.64	6.75%	○													
【産業廃棄物の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減による廃棄物排出量削減 廃棄物容量の減容 廃棄物の分別の徹底 廃棄物の省資源化検討 (リサイクル出来る物を発掘) 毎月の廃棄物排出量を把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kg/生産高(百万円)</td> <td>470</td> <td>528</td> <td>11.16% 増加%</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>通期での排出量は前年比で11.16%の大幅な増加となっている 廃粉体塗料の排出が64.96%増加となっているのが主な要因 塗装委託品の内製化による稼働延長で排出重量が大幅な増加</p> <p>次期取組 重要度 ○(重要)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kg/生産高(百万円)	470	528	11.16% 増加%	×
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kg/生産高(百万円)	470	528	11.16% 増加%	×													
【化学物質使用量の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減による化学物質使用量削減 作業方法(洗浄・調合)の見直し 毎月の化学物質使用量を把握・監視 <p>PRTR法の届出対象事業所に該当する</p>	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kg/生産高(百万円)</td> <td>6.55</td> <td>0.00</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>粉体塗装の一本化により溶剤塗装を行うことがなくなり 化学物質の使用がなくなっている。 (粉体塗装は有機溶剤を含まず化学物質未使用)</p> <p>次期取組 重要度 —</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kg/生産高(百万円)	6.55	0.00	—	—
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kg/生産高(百万円)	6.55	0.00	—	—													
【二酸化炭素排出量の削減】 原単位(kg/生産高)を 年度ごとに1%削減する	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減を図り不必要な稼働延長を防止 毎月の電気・ガス・ガソリン使用量を 把握・監視 	<p>(実績)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値1%削減</th> </tr> <tr> <th></th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>削減率</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>環境効率指標 kg/生産高(百万円)</td> <td>2656</td> <td>3954</td> <td>47.38% 増加</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p>(評価)</p> <p>電気・ガス使用量の目標未達が主な要因。不良率削減による 稼働時間削減で電気・ガス使用量削減に結びつけていくことが 必須となる。</p> <p>次期取組 重要度 △(維持)</p>	基準値1%削減						目標	実績	削減率	評価	環境効率指標 kg/生産高(百万円)	2656	3954	47.38% 増加	×
基準値1%削減																	
	目標	実績	削減率	評価													
環境効率指標 kg/生産高(百万円)	2656	3954	47.38% 増加	×													

7-2 今年度の重点取組事項への評価と反省

(※評価の基準)

- ◎ : 取組事項の効果が非常に有効
- : 取組事項の効果が有効
- △ : 取組事項の効果が不十分
- × : 取組事項の効果なし

① 瀬戸日の出工場

※電力デマンド管理システムの導入により「使用状況の見える化」が可能になりました。

取組項目	今年度の重点取組事項	評価	反省
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・日の出第2工場の有効活用による既存設備の稼働時間効率化(電着ライン・上塗りライン) ※継続 ・塗装不良削減に向けたロボットティーチング見直し等の製造技術改善部署の新設及び発生源対策(ものづくり)へのプロジェクトチーム推進(不良削減によりムダな稼働を削減し電力・ガスの使用量削減に結び付ける) 	○	日の出第2工場の活用については効果大、自動車部品受注量も落ち着き日の出工場の稼働時間は前年比11.97%減少となった。電力消費については不良対策の設備新設もあり、3.07%の減少に留まっている。ロボットティーチング要員については結果増員に至っていない。自動車製品の不良率は季節変動が大きいため、コンサルティングの導入を進め活動中。電着ラインも塗装前の品質改善に向け水平展開を開始。
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・前処理設備業者の協力の下で設備からの水の循環利用を検討 ・排水メーターの早期導入を検討する ※継続 	△	自動車部品への塗装前処理管理が従来より大きく変更し客先要求品質への対応もあり毎時水使用量は減少していない(期間使用量は9.41%減少)前年比28.8%増。排水メーターの導入については検討段階に留まり実現せず。
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・取引先、運送会社にラップ材梱包での搬入を極力削減する様に呼びかける(繰り返し使用出来る梱包紐の推奨)→継続 ・分別の徹底によりリサイクル率を向上させる →使用済みラップは分別の徹底により廃プラ(不燃ゴミ)として出さない様に周知し全量をリサイクル行引き取りができる様にする ・塗装不良削減により塗料使用量を減少させ廃シンナー排出量削減に結び付ける 	△	ラップ材梱包について自動車部品の素地入荷状態で多用されており代替対応出来ず。リサイクル率向上については新たな品目を見出せず未達。納品済み梱包袋の処分については受入れ時の通箱運用が進み削減している。
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・製造技術部署の新設により塗装ロボットの最適塗装を目指す活動を強化し不良削減により化学物質の使用量を減らす ・洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一) 	△	塗装の自動化による不良率の削減については自動車部品の不良削減が進まず。自動車部品塗料購入量、化学物質使用量は前年比で自動車部品の受注減少と連動して減少している。洗浄シンナー使用量削減については新規部品の品質向上を目指した設備メンテナンスの強化により削減出来ていない。

② 瀬戸日の出第2工場

取組項目	今年度の重点取組事項	評価	反省
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・不良削減によりムダな稼働を削減し電力・ガスの使用量削減に結び付ける ・1F前処理の投入効率向上による稼働時間短縮 	△	電気。ガス使用量とも夜勤体制の本格化により大幅に増加している。売上げは稼働時間と同率で増加しておらず効率指標は後退している。1F投入効率向上(吊り数)については専用治具化を含め導入待ち
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・薬剤メーカーとの打合せにより処理水交換頻度の見直し 	△	処理水の交換頻度については前処理品質への影響から変更が難しいことがわかった
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別の徹底によりリサイクル率を向上させる →使用済みラップは分別の徹底により廃プラ(不燃ゴミ)として出さない様に周知し全量をリサイクル行引き取りができる様にする 	△	分別の徹底については周知したものの理解不足により混入が多く見受けられたため再教育と表示の見直しを行う

(3)次年度(2017年度)の活動計画

次年度は今年度の活動をベースに継続して改善を進めて行きます

下記に今回の取組結果の反省を基に次年度の重点取組事項をまとめました

① 瀬戸日の出工場

取組項目	次年度の重点取組事項
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減によりムダな稼働を削減し電力・ガスの使用量削減に結び付ける 塗装不良削減に向けたロボットティーチング見直し等の製造技術改善(ロボットティーチング要員を増員し不具合対応への迅速化を図る) 前処理投入効率化(吊り数増加)による不要な稼働時間短縮
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 前処理設備業者の協力の下で設備からの水の循環利用を検討する(前処理RO(純水生成装置)廃止→活性炭処理水装置導入検討) 前処理投入効率化(吊り数増加)による不要な稼働時間短縮
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 新聞紙等を使用した状態での生地(素地)受入れ中止を呼びかける(繰り返し使用出来る通箱の推奨) 分別の徹底によりリサイクル率を向上させる →使用済みラップは分別の徹底により廃プラ(不燃ゴミ)として出さない様に周知し全量をリサイクル行引き取りができる様にする 塗装不良削減により塗料使用量を減少させ廃シンナー排出量削減に結び付ける
化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ロボットティーチング要員を増員し塗装ロボットの最適塗装を目指す活動を強化し不良削減により化学物質の使用量を減らす 洗浄シンナー使用量削減に向けた対策を強化する(使用方法の明確化と統一)

② 瀬戸日の出第2工場

取組項目	次年度の重点取組事項
電力・ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> 不良削減によりムダな稼働を削減し電力・ガスの使用量削減に結び付ける 1F前処理の投入効率向上による稼働時間短縮
水使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> 活炭処理水の給水バルブ調節 節水の奨励
産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> 分別の徹底によりリサイクル率を向上させる →使用済みラップは分別の徹底により廃プラ(不燃ゴミ)として出さない様に周知再教育し表示の見直しを行い全量をリサイクル行引き取りができる様にする 新聞紙等を使用した状態での生地(素地)受入れ中止を呼びかける(繰り返し使用出来る通箱の推奨)

経営に寄与する「環境に優しいものづくりの推進」
【Q(品質)E(環境)M(経営)が三位一体となった活動】
※塗装不良削減を最重点取組みとしムダな稼働を減らすことで環境負荷の削減に結び付ける

8. 環境関連法規制等への違反及び訴訟の有無

(1) 関連法規制等への対応

各環境関連法規制については個別に「順守確認チェック表」を作成し法令等の改正及び順守の確認を行っています。順守状況に不具合があった場合は「是正処置・予防処置報告書」を発行し、処置の実施及び確認をする仕組みを採っています。

法律条例等の名称	当社の対応状況	瀬戸日の出工場	瀬戸日の出第2工場
水質汚濁防止法	塗料庫(指定施設)での事故(設備破損等による地下への汚染)発生時に届出義務あり	○	○
騒音規制法(愛知県条例)	コンプレッサーの能力が該当する為、関係当局に届出	○	○
振動規制法(愛知県条例)	コンプレッサーの能力が該当する為、関係当局に届出	○	○
廃棄物処理法(愛知県条例)	産業廃棄物の適切な処理保管、マニフェストによる管理を行なう	○	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出(1回/年)	○	○
下水道法(市条例)	瀬戸市下水道条例に基づき排水の処理管理を行ない定期的に報告を行なう	○	△
特定化学物質排出把握管理促進法(PRT法)(愛知県条例を含む)	化学物質使用量(第1種指定・特定第1種指定)の把握及び関係当局への報告(1回/年)	○	△
毒物劇物取締法	指定物の使用状況の把握及び貯蔵状況の確認	○	○
消防法(名古屋市・瀬戸市火災予防条例)	法に基づき乾燥設備・変電設備・少量危険物貯蔵庫(塗料庫)の点検・報告・届出を行なう	○	○
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則に定める基準を順守し検査を行ない記録(健康診断・作業環境測定等)を管理する	○	○
グリーン購入法	グリーン購入法適合商品の購入を目標を定め推進する	○	○
環境配慮促進法	事業活動に関する環境情報を外部に開示する	○	○
瀬戸市環境の保全及び創造に関する協定	環境保全計画書に締結した内容に基づき環境法規制を順守する	○	△

順守確認については環境管理責任者が実施致しました。これ以降は必要に応じ確認を行っており法規制及び条例等への違反事項はありません。

(2) 違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に関する主な環境関連法規制及び対応状況は上記関係法規を含め全て順守しています。瀬戸日の出工場は設立(2010年10月)以降、関係各機関から違反、告訴等はありませんでした。告訴等はありませんでした。2016年3月瀬戸日の出第2工場の近隣より臭気に関する苦情が寄せられましたが早期に対策を行ないこれ以降苦情はありません。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

2016年5月から2017年4月までの当社(瀬戸日の出工場、第2工場)の環境活動の結果を管理責任者より報告を受けました。当社は2012年7月にea21認証登録(全社)、12月に瀬戸市の「環境にやさしい事業所」認定(瀬戸日の出工場)を受けて以降、社員の環境意識の高まりにより活動が浸透して来ました。

瀬戸日の出工場は以前より塗装ブースの改造、ロボット増設により塗装の自動化に向けた取組みを推進して来ましたが、昨年度立上りの自動車部品の不良率削減が進まず大きな課題となっております。経営面からも売上高増加に伴い必要経費(設備ランニングコスト、塗料購入費)も大きく増加しており塗装不良削減は緊急課題となっております。

瀬戸日の出第2工場は2014年6月に同じフロアで粉体・溶剤のどちらも行える画期的な新塗装ラインとして稼働しました。従来は品質問題から粉体・溶剤塗装は別工場に隔離して行う物とされており、同一フロアでの実施は当社の大きな強みとなっております。また、粉体塗装は有機溶剤を使用しない環境配慮型の塗装工法です。2015年2月には次世代型環境配慮薬剤を使用する塗装前処理設備を稼働させ、第2工場は環境配慮型設備を導入した工場展開となっております。

次年度はアルミ自動車部品への塗装を主とする第3工場の立ち上げを控えており、新規自動車部品メーカーへの納入が本格化し従来のガス機器部品中心の生産形態から自動車部品へとシフトが一段と進む状況にあります。アルミ部品は燃費問題から今後自動車部品への採用が急激に進むものと想定されており、「アルミ部品への塗装技術」「環境配慮型設備の設備導入」が当社の大きな強みとなって行きます。不良を作らないものづくりと品質不良を流出させないためのプロジェクトを強化して推進し顧客の品質に係る信頼性の確保と不良削減、不用品稼働時間の削減による環境負荷物質の削減をメインテーマに掲げ、従来のQ(品質)E(環境)M(経営)が三位一体となった環境経営を加速させレベルアップした「環境にやさしいものづくり」を推進して行きます。